

# 下野市立石橋中学校

## 1 学校課題

「主体的・対話的で深い学び」の充実  
～見方・考え方を働かせた課題発見・解決学習の推進～



## 2 研究計画

### (1) 主題設定の理由

本校の教育活動の目的は、「未来を、たくましく生き抜ける生徒」を育成していくことである。その実現のために、「自立・創造・貢献」という学校教育ビジョンを掲げ、教職員全員が同じ思いで生徒たちを指導、支援することを目指している。

世界では、国同士の対立による国際情勢の緊張、地球温暖化の影響による異常気象の多発、大きな自然災害による被害や復興、情報社会の発達による社会や人の影響など、様々な問題が起きている。今後もっと多くの課題が出現し、社会も急速に変化していく。そのような世界をたくましく生き抜くために、「今まで遭遇してこなかった課題に挑戦する」「正解のない課題とどう向き合っていくのか」「そもそも何が問題なのかを考える」といった力が問われている。そのために「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善をさらに進めていきたいと考える。

### (2) 研究の仮説

各教科で基礎・基本的な知識や技能を計画的に指導した上で、レベルの高い課題（一人では容易に解決できない課題）を提示し、仲間と協働して解決する過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を展開し、「主体的に問い続ける学習者」および「学びに向かう集団」を育成できると考える。

## 3 研究内容

授業力向上に関すること

### (1) 一人一公開授業

今年度も昨年度に引き続き異教科異年齢3人の班を構成し、一人一公開授業及び授業後の授業研究会を実施した。公開授業の実施にあたっては、学校課題の「主体的・対話的で深い学び」を意識した課題を選び、授業を行った。課題は、教科書の問題や、実際の社会で遭遇する具体的な場面を想定した問題など、生徒の主体性を引き出す課題を選んだ。異教科の教員の授業を参観しお互いに刺激をもらい、学び合うことができた。

#### 【一人一公開授業で実践した課題】

- ・国語科「詩を『君』の視点から書きかえよう。」「表現の特徴やリズムを感じて朗読をしよう。」
- ・社会科「模擬裁判を通して、裁判員制度の仕組みを理解しよう」「北海道地方」
- ・数学科「水平線までの距離を求めよう」「根拠を明らかにしながら、凹四角形の角の求め方を説明しよう」「図形の性質を論理的に説明する力を育てよう」
- ・理科「フックの法則」「細胞の増え方を理解しよう」
- ・英語科「本文を読み取り、英語の語順や内容の流れを理解しよう」  
「日本や郷土の文化などについて、詳しい情報を加えて説明しよう」
- ・保健体育科「バレーボールで多く繋ぐには」
- ・道徳科「充実した家庭生活を築こうとする実践意欲を育てる」

### (2) 教科部会（時間割に位置付け）

教科内で授業内容や指導方法について専門的に話し合うため、教科部会を時間割に位置付けた。教科内での公開授業を行い、教員の授業への意欲も高まり、授業力の向上が図られた。

### (3) 総合的な学習の時間でのゼミ活動

SDGsをテーマにゼミ活動を行った。今年度は、昨年度のテーマである「企業に学ぶ」を更に深化させることを目指した。「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ」の流れで、グループで協力し探究活動を行った。単なる調べ活動でなく、自分たちが住む地域の課題解決を目指し日々奮闘している企業に直接質問するなど、当事者意識をもち学習に取り組ませた。また、聞き手にとって理解しやすい発表を行うなど、他者意識の育成を目指した。

### (4) 校内研修やS&Uコラボ研修会

「学び合い」の授業を行う上で、教員としての必要なスキルをアップするための校内研修やS&Uコラボ事業による研修会・授業研究会を実施した。「レベルが高く、生徒の主体性を引き出す課題」を提示し、仲間と協働して解決する過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業を行った。

月日	学年	単元名（題材名）、教材名	課題追究のための手立て等
9/3	講話	道徳「学習評価について」	主に主体的な態度の評価の方法や、評価を踏まえた授業改善へのアプローチの方法を共有する。
10/20	2年	理科「天気の変化」	既習事項や、資料を活用し、仲間と協働しながら課題を解決する。
11/14	3年	道徳「家族の役割（家族愛）」	生徒の主体的・対話的な学びを引き出す発問の工夫、精選。

### (5) ローテーション道徳

ローテーション道徳を年2回（6月・12月）実施した。同じ教材の授業を複数の教員が複数の学級で行うことで授業改善を図ることができた。また、小中一貫事業と重ね、研修の充実を図った。



### (6) 石中教育フォーラム

年度末の校内研修として、全教員が個人レポートを作成し、それをもとにこの1年間の日々の授業や公開授業、研修などで学んだことを共有した。最後には功労者として代表の教員が自身の研究を発表した。

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 研究の成果

学校全体として、ペア学習やグループ学習による対話を通じた深い学びを実践するための取組や基礎・基本を定着させる取組を実践した。国語科や数学科では、定期テストで出題する問題を全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査で正答率が低かった問題から出題し、生徒の理解度を測った。また、小テストで定期的に復習するなど確かな学力の定着を目指した。道徳科では、生徒が考え議論する道徳を実現するために「発問づくりシート」を活用して、発問の精選を行うことで授業力改善を目指した。生徒による学校評価アンケートで、「友達と協力して学習し、自分の考えに生かしている」は、3年生が3.6（4段階評価）と昨年度に引き続き高い評価を得ている。

### (2) 研究の課題

学校評価アンケートで、「授業に意欲的に取り組んでいる」は、生徒全体で3.3（4段階評価）と昨年度と横ばいの結果であった。発展課題に挑戦する授業実践は必須であるが、学力を向上させる素地である、学業指導に全職員が一枚岩となって取り組むことが必要である。生徒の達成感や成就感を引き出すために、3年後を見据え、確かな学力を伸ばす授業作りへの意識向上及び探究心が必要である。